

# ご あ い さ つ

沖縄県衛生環境研究所長 上里 林



所長 上里 林

平成27年4月1日付けで所長に就任いたしました。衛環研ニュースの紙面を借りてご挨拶申し上げます。

現在の衛生環境研究所は、昭和55年8月に竣工し今年で35年になります。

人里から少し離れた小高い丘の中腹にたたずむ研究所は、周囲を緑に囲まれた静

かな環境を保っており、まさに調査・研究・研修等を行うにふさわしい恵まれた環境にあります。四季折々の花が咲き、ヒヨドリ、メジロ、ウグイスなどの小鳥が毎日訪れます。

現在の衛生環境研究所はこのように素晴らしい自然環境に恵まれた研究所ではありますが、時の流れ、時代の流れには逆らうことができず、当時先進的な研究所であった施設も老朽化が著しく、近年の検査技術や検査機器の専門化・高度化に対応するには厳しい状況となってきています。

一方、新型インフルエンザをはじめとする新興感染症はもとより、昨年、西アフリカで猛威を振るったエボラ出血熱の流行は、人々の交流が世界の規模で行われる現代において、海外の感染症を「対岸の火事」として静観できる状況にないことを示唆しております。観光立県を推進する本県には国内外から多くの観光客が訪れます。今後、より一層の感染症対策・対応が必要になるものだと考えます。

加えて、O-157等による大規模食中毒の発生、地球温暖化に起因する新たな保健衛生上の問題、原発事故に伴う放射能問題、PM2.5のような広域的な環境問題など、県民の生命を脅かす様々な事態の発生が懸念されており、衛生環境研究所の担う役割はますます増大しております。

このような状況から、時代のニーズに即応できる機能を有した研究施設の整備は急務であるとの認識のもと、「衛生環境研究所のあり方」の検討を経て、平成25年に研究所施設の建て替えが決定

されました。

新施設の移転先は、現在の南城市大里から北へ25kmに位置する、うるま市兼箇段の旧園芸支場跡地となっております。

新施設の敷地面積は約15,000㎡、建物は地上2階建て延べ床面積は約5,700㎡を計画しており、来年7月の完成を目指して建設工事を進めているところです。

新たな衛生環境研究所は、次の5つの基本コンセプトにより設計されております。①研究所としての機能が十二分に発揮できるよう「明確なゾーニングにより諸室が配置された研究所」とする。②一般公開区域、研究実験区域、管理区域（立入制限区域）等、「区域の用途に応じたセキュリティーレベルが設定でき、管理の容易な研究所」とする。③研究所として将来長期にわたって機能を果たすために、模様替えや設備の交換が容易に行えるような「フレキシビリティの高い、大きな建築空間をもつ研究所」とする。④広く県民に衛生環境を広報するために「開かれた親しみのある研究所」とする。⑤建物の長寿命化を図るとともに、省エネや自然環境保全などについて、細やかな「建築的配慮がされた研究所」とする。

これまでの衛生環境研究所では、①試験検査、②調査研究、③研修教育、④公衆衛生情報等の収集・解析・提供の4つの基本的な機能により、県民の公衆衛生の向上、並びに環境の保全に努めてきたところではありますが、新たな施設を整備するに当たっては、4つの機能の更なる充実を図るとともに、複雑化・多様化する健康危機事例に迅速かつ確に対応するため、健康危機管理の科学的かつ技術的拠点としての機能を充実強化することとしています。

当研究所は、公的研究機関として、様々な健康危機管理事案や環境問題に迅速かつ確に対応し、各種行政施策の推進に職員一丸となって取り組んで参ります。各位の一層のご理解、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。